

暑い日が続きますね。日中動くだけで、意外と体力を使います。休憩を兼ねて読書するのはいかがでしょうか？
見た目も内容も爽やかな青い本があるといいですね。そんなわけで、今回の特集はこれです。

職員による本の紹介特集

涼しげな一冊をどうぞ あおい本



書名に「青」や「ブルー」が入っている、表紙が青い、「青春」や「青空」などがテーマになっている…。そんな、「あおい」イメージの本を集めました。



『あの日の空の青を』

まついのりこ／著（童心社） 914 マツ

絵本・紙芝居作家まついのりこさんのエッセイ集です。あの日というのは、1945年8月15日。戦争は人々から色彩や歌声だけでなく希望や尊厳をも奪っていきました。色あせた生活の中でまついさんの目にこびりついた赤い色、それは、空襲で取り残された家族を囲む焼夷弾の炎の色、凍り付く恐怖の色でした。終戦を知り、11歳のまついさんは青い美しい空を見つめました。生きる喜びの色こそが平和なのだともついさんは語ります。この時期に繰り返し読みたい本です。

(本館 林)

『ブルー』

久美沙織／著（理論社） 児童 913 ク

「青」が何度も印象的な場面で登場する、この小説は、中学生の「杏」と40代の「サヨコさん」、ほぼこの2人だけで展開します。著者自身がサヨコさんのモデルで、本当にあったバス事故が題材となっています。

2人に共通なのは、身近な人の死を経験し、その死に対する悲しみだけではない、人には言いにくい心の「痛み」を持っていることです。

2人は一日限りで別れますが、杏はまたサヨコさんに会えるだろうと思います。なぜなら「サヨコさんとあたしはきっと、赤い糸…じゃなくて、青い空でつながっているから。」 (本館 可児)

『風の歌を聴け』

村上春樹／著（講談社） 913 ム

「完璧な文章などといったものは存在しない」で始まる村上春樹のデビュー作。冒頭から彼の文章への意気込みとプライドに、瑞々しささえ感じられる。主人公の僕と友人の鼠。そしてその二人の間を風のように通り抜ける彼女。物語は交錯しながら一本の線となって帰結していく。都会のクールな青春。あなたはどのようにこの謎を解くのだろうか？文豪の青年時代の作品。今の感性で読んでみては？

(本館 濱口)

『波のそこにも』

末吉暁子／作（偕成社） 児童 913 ス

はるかに続く青い海。その海の深い底にある「水底の国」。そこに住む少女タマオのもとに、ある朝、地上の国から、少年が舞い降りる。その少年は実は地上の帝であり、大切な宝剣をなくしたことを嘆く。帝とタマオ、そして水族の男ギョイというこの宮の姫ウシオの4名が、失われた宝剣を探す旅を始める。「平家物語」と「太古の物語」をモチーフに、佐竹美保氏の美しい挿し絵が水底の世界をきわだたせる冒険ファンタジー。

(桜ヶ丘分館 成瀬)

『ひんやり氷の本 氷から見つけた「食べる」
「使う」「知る」ための5つの物語』

前野紀一／監修 (池田書店) 451.6 ヒ

理学博士が監修した科学の本です。おいしいかき氷のかき方や氷を使った料理、お酒をおいしくする氷の使い方、おうちでできる氷の実験、氷室での氷づくりなど紹介しています。氷の不思議を科学的にとらえながら、科学だけでなく料理の本としても楽しめますよ。

(帷子分館 溝口)

『海底二万里』上下 (角川文庫)

ジュール・ヴェルヌ／著 渋谷豊／訳
(KADOKAWA) 953.6 ベ

類いまれな冒険小説の作者として、世界中で愛されているジュール・ヴェルヌの代表作です。無敵の潜水艦ノーチラス号で、次々と起こる海の驚異に立ち向かいながら世界中を旅する謎多き人物、ネモ艦長。はたしてその目的は…。

豊かな空想力を駆使した迫力あるストーリーはもちろん、詳細な海路や、様々な海洋生物の登場にも興味をそそられます。地図と図鑑を片手に、じっくりと海底旅行に浸ってみてはいかがでしょうか。

(帷子分館 倉知)

『ひんやりと、甘味』

阿川佐和子 他／著 (河出書房新社) 914.6 ヒン

スカイブルーの表紙に、透明な器に盛られたみつ豆の絵が涼しげなこの本。暑い夏にぴったりな冷たいスイーツのエッセイを集めたアンソロジーです。アイスクリーム、クリームソーダ、みつ豆、ところてん等。各々の作家の夏の思い出が一杯つまっています。私にとってもシャーベックやカルピスは子供時代の夏の味。この本を読むと昔にタイムスリップしたような懐かしい気持ちになります。読んだだけでスッと涼しくなれる本はいかがですか？

(帷子分館 磯道)

『クラゲの不思議』

三宅裕志／著 (誠文堂新光社) 498.3 ミ

表紙は深海を思わせる暗い青。そこにぼっかりと浮かぶ、月のような、花のような、瞳のような一。そんなクラゲは約5億年前に地球に出現し、現在までほとんど形が変わっていません。それほど、生物として“洗練された”形態を持っているのです。脳も心臓もない、無性生殖と有性生殖をする、死なない(復活する)種類がいる…。クラゲの生態は謎と驚きに満ちています。近年は水族館の人気モノでもあるクラゲ。そのわかりやすい入門書です。

(帷子分館 熊崎)

『夜のピクニック』

恩田陸／著 (新潮社) 913.6 オン

全校生徒が夜を徹して80キロを歩き通すという「歩行祭」。それは、甲田貴子と西脇融が通う高校の伝統行事だ。貴子はその高校最後のイベントで、三年間、誰にも言えなかった秘密を清算するかどうかの賭けをした。はたして、貴子はその賭けに勝つことができたのか？

主人公2人と、その友人たちが織りなす、友情と愛情のストーリー。永遠普遍の青春小説です。

(本館 篠田)

『一瞬の風になれ』(全3巻)

佐藤多佳子／著 (講談社) 913.6 サト

海老名グランドのタータンが青い、水みたい涼しい感じ、という若菜。「涼しいもんか。熱くて手ついたら火傷するかと思った」と慎二。「ああそうか、今年は私、手をつかなかったよ」— 彼女は短距離から中距離に転向したのを思い出す。勝つために、高校生活のすべてを練習にかける。抜けるような青空、白いレーン。ゴールに向かってバトンを繋ぎ、走る、ただ走る。笑って泣ける、極上の陸上小説です。

(帷子分館 瀬尾)

『夜空と星の物語 日本の伝説編』

森山晋平／編著（パインターナショナル） 443.8 ヨ

星の数だけ物語がある…真っ青な夜空に降るような星。夜空シリーズ本の中の1冊ですが、本書では日本各地の星にまつわる伝説を紹介しています。日本一有名なデートは「聞き間違い」から生まれ、宮城県仙台では離ればなれになった友人との友情のカササギの折り紙から七夕祭りへ。北海道では月の王子の雪合戦のこぼれ玉からうさぎになるお話、他にも切ない家族の物語からラブストーリーまで…古の人々に思いを馳せながら夜空を楽しんではいかがでしょうか。

(桜ヶ丘分館 小島)

『さかなクンの一魚一会』

さかなクン／著（講談社） 児童 289 サ

「ぎょぎょ！」でおなじみ、東京海洋大学客員准教授を務めるさかなクンの自叙伝です。

タコをきっかけに魚の世界に夢中になっていくさかなクン。学校帰りに往復2時間もかかる魚屋さんに、魚を見に通うことも。興味のあるものには全力で力を注ぐ真っすぐな姿に、自然とまわりの支えも増えていきます。そして、夢を叶えるさかなクン。

子どもの好奇心を伸ばすには、親も一緒に楽しむのが良いようです。夏休み、親子で楽しんでみてはいかがでしょうか。

(桜ヶ丘分館 春日井)

『残したい地球の自然』

柳木昭信／著（ピエ・ブックス） 748 ヤ

世界各地の雄大な自然を撮影した写真集です。蒼い空と様々な大地のコントラスト、幾何学模様 of 紺碧の海など、やはり、地球は青い星なんだと思わされます。この中には消えゆく風景もあることでしょう。自然が織りなす美しい写真の数々は暑い夏にひとときの清涼感をもたらしてくれます。

(本館 饒村)

『ブルー・ゾーン』

篠宮龍三／著（オープン・エンド） 785.2 シ

深く潜るにつれ青は深さを増し闇に近づいてゆく。地球上の青をすべて集めたかのようなブルー。この世のものとは思えないほど美しい青い闇の世界グランブルーに惹かれフリーダイビングを始めた著者。

日本では、馴染みの薄いこのスポーツを多くの人知って欲しいと日本人初のプロのフリーダイバーになり、フィンをつけただけで素潜りする競技でアジア最高の115mを記録されました。

彼の情熱と深い海の青に、しんとしながらも力強さが感じられる一冊です。 (本館 土谷)

『ツバメ号とアマゾン号』上・下

アーサー・ランサム／著 神宮輝夫／訳
(岩波書店) 児童 933 ラ

兄弟四人の夏の日々のお話。無人島でキャンプしたり湖で帆船を走らせたり。新しい友人もできます。

時代や国が違うので違和感もあるかもしれませんが（どんな所でもお茶の時間があつたりとか）、そこには押し付けではない子ども達だけの夏があります。また、それをおおらかに見守る大人も素晴らしい。

小学校高学年くらいから読めると思います。巻末に上橋菜穂子の解説付き。 (本館 橋本)

『海の名前』

中村庸夫／文・写真（東京書籍） 452 ナ

群青から碧青へと変化する海の写真が表紙を飾り、海にまつわる様々なことばが紹介されています。海の呼び名も、広さや陸地からの距離により、海洋、外洋、内海、沿海など様々。他にも日本近海を流れる初夏の「黒潮」のことを、その色から「青潮」や「青葉潮」、「桔梗水」と呼ぶ地域もあるそうです。波の呼び名も、荒々しい「徒波（あだなみ）」、次々にうち寄せてくる「五百重波（いおえなみ）」、等々紹介されています。海に囲まれた島国で生まれた日本人の豊かな感性に感嘆するとともに、子どもたちにも伝えてゆきたい美しいことばだと思いました。

(帷子分館 福井)

『反乱のボヤージュ』

野沢尚／著（集英社） 913 ノザ

廃寮の危機に立つ学生寮を舞台に、元刑事の舎監・名倉健一と、平凡な学生・坂下薫平を中心とした寮生たちとの交流と闘争を通じて、現代の若者の心理と、現代に失われつつある父性を表現した青春小説。大学との対立、肉親の借金、恋愛、就職問題、ストーカー事件など、各々の身に起こる問題を当事者として向き合い、葛藤し、成長していく寮生たちの姿が丹念に描かれています。現代的な事なかれ主義の人々に読んでほしい一冊です。

（本館 多賀）

『蒼蠅（あおばえ）』

熊谷守一／著（求龍堂） 723.1 ク

岐阜県恵那郡付知町（現中津川市付知町）生まれの画家・熊谷守一の「言行録」です。守一の生い立ちから、亡くなる2年前の95歳までの生活を、守一の言葉で語られています。

書家でもある守一は、展覧会では売れないで残る「蒼蠅」という字をよく書くそうです。病気の時に、床の周りをぶんぶん飛んでくると、景気よくて退屈しないそうです。

無理しない、退屈しない、描きたいときに描く守一ですが、次男・陽が肺炎で亡くなった時、絵を描いている自分に、愕然としたそうです。

（桜ヶ丘分館 松浦）

『SWELL a year of waves』

エヴァン・スレーター／著（パインターナショナル） 748 ス

「swell」とは、波のうねり。青碧色の大波が空高く、白く弾ける冠を押し上げるように立ち上がる表紙写真からは波音も聞こえてきそうです。サーファーでもある著者が世界の様々な海から切り取った155の波は、まるで人間のように多彩な表情をしています。透明な波頭がきらめく南の海の「巻き波」、夕日に赤く染まる「さざ波」…。美しい写真だけでなく、世界各地でみられる波の特徴、台風やエルニーニョ現象などの気象現象が海に及ぼす影響などについても述べられています。ページを開けば海辺のリゾート地に来た気分になる1冊です。

（帷子分館 福井）

『そして、ぼくは旅に出た。』

大竹英洋／著（あすなる書房） 914.6 オオ

表紙は北米の空と湖が織り成す深い青色です。

日本のごく普通の若者が、ある夜オオカミの夢を見ます。翌日オオカミの写真集に出会い、強い影響を受け、この写真家に会いたい、弟子入りしたと願うようになります。ついにはその世界的に有名な写真家の家を探しに、北米の地図にも詳しく載っていない町を目指し旅に出ます。それも、初めて乗るカヤックを使って。

あまりに無鉄砲な旅ですが、若者の思いはどこまでも真面目、かつ実話です。現在、自然写真家として活躍中であり、初めてこのエッセイを執筆したのでした。

（本館 長谷川）

あたらしく入った本

分類	書名	著者名	出版者名
情報・博物館			
069.0/ミ/	ぐるぐる♡博物館 国立科学博物館、雲仙岳災害記念館、めがねミュージアム…。人類史の最前線から、秘宝館まで、個性あふれる博物館を探検するルポエッセイを収録。	三浦しをん／著	実業之日本社
070/ミ/	人間はだまされる あふれる情報とどうつきあえばよいのか…。ジャーナリストである著者が、メディアリテラシーを身につけた賢い情報受信者、発信者になるために大切なことを語る。用語解説付き。	三浦準司／著	理論社
歴史・伝記			
209.5/マ/	1493<入門世界史> コロンブスのアメリカ到達によって、世界はどう変わったのか。さまざまな思惑によって、人とモノが行き交い、世界がつながっていく様子をダイナミックにたどる、世界史がぐっとおもしろくなる異色の入門書。	チャールズ・C.マン／著	あすなる書房

288.1/モ/	名字でわかるあなたのルーツ	森岡浩／著	小学館
	奈良の「高い橋」に因む朝廷の料理番「高橋」、水軍で知られる大阪発祥の一族「渡辺」…。名字の由来を知れば、一族と地域、国家の歴史がわかる。約 2500 の名字のルーツを解説する。ルーツを探す方法なども紹介。		
289.1/ヨ/	遙かなるブラジル	與島瑗得／著	国書刊行会
	高度経済成長期に、裸一貫でブラジル奥地へ宝石鉱山を探すべく日本を飛び出したひとりの男。彼の見たブラジル社会の驚くべき姿や、宝を求めてうごめく様々な人間模様を克明に綴った移民日記。		
社会			
304/モ/	楽しい縮小社会	森まゆみ／著	筑摩書房
	少子高齢化や連続マイナス成長…。このままでは日本は沈没するって本当？ 持たない生活を実践してきた作家・森まゆみと、技術開発にしのぎを削ってきた工学者・松久寛の刺激的な対話集。		
367.2/フ/	ワンオペ育児	藤田結子／著	毎日新聞出版
	働く母親はいつまで上司と同僚に謝り続けるのか。父親たちは育児をしないのか、できないのか。気鋭の社会学者が、朝から晩まで働きつめの母親たちの実情に迫る。		
自然科学・医学			
448/タ/	地球は本当に丸いのか？	武田康男／文・写真	草思社
	当たり前なのに、なかなか実感できない「地球が丸い」ということ。でも風景や空の現象の中に、地球が丸い証拠はたくさんある。「水平線がはっきり見える」「空に地球の影が見える」等、丸さの証を美しい写真とイラストで紹介。		
498.1/カ/	日本一赤ちゃんが産まれる病院	亀山早苗／著	中央公論新社
	「日本一赤ちゃんが産まれる病院」は熊本にあった！ 魅力的なサービスを提供しつつ、不妊治療から子育て問題、更年期治療、特別養子縁組まで、「女性の一生」にひたすら寄り添う。命の最前線を取材した熱き人間ドキュメント！		
498.3/ヒ/	病気にならない 21 の鉄則	「きょうの健康」番組制作班／編	主婦と生活社
	がん、糖尿病、脳卒中、ロコモティブシンドロームの予防法を詳しく解説。医学的根拠が確かで実践しやすいものを厳選し、「21 の鉄則」として簡潔にまとめる。NHK の番組「きょうの健康」の内容をもとに書籍化。		
技術・家政			
517.2/タ/	物語日本の治水史	竹林征三／著	鹿島出版会
	治水の歴史とは、事故と失敗に対し、いかに学び、難課題を克服してきたかの歴史である。神話・伝説に始まり、武田信玄、加藤清正、明治以降の田辺朔郎、青山士らの名治水家まで、治水の歴史を解説する。		
569.8/ニ/	地質のプロが教える街の中で見つかる「すごい石」	西本昌司／著	日本実業出版社
	ビルの外壁、石畳の歩道、デパートの階段、地下街の柱、公園のモニュメント…。「すごい石」は街のいたる所にある！ 地質のプロが、石材を通して自然と文化を探る“街角地質学”の愉しみ方を伝える。		
597/ホ/	ホームセンターマニアがつくるおしゃれな雑貨とインテリア		主婦と生活社
	カッコよくて世界に1つしかない空間がつかれる、ホームセンターグッズを使ったDIYを紹介。武骨アイテムで部屋をシックに模様がえする方法、簡単&おしゃれな雑貨や家具のつくり方などを収録する。		
日本文学ー小説			
913.6/アサ/	福袋	朝井まかて／著	講談社
	その日暮らしの気楽さ、商売のさまざま、歌舞伎の流儀、祭の熱気、男女の仲…。江戸庶民の暮らしを綴る、著者初の時代小説短編集。表題作ほか、全 8 編を収録する。		
913.6/アサ/	薫風ただなか	あさのあつこ／著	KADOKAWA
	石久藩の藩学で心身に深い傷を負った新吾は、庶民も通う薫風館で新たな友と学びを得る。しかしある日、「薫風館にはお家を害する陰謀が潜んでいる」と、父から問者になるよう命じられ…。		
913.6/エガ/	病巣	江上剛／著	朝日新聞出版
	総合電機メーカー芝河電機監査部の瀬川は、内部告発をきっかけに芝河の基幹部門が危機的状況であることを知る。粉飾決算、原発企業の巨額損失…。はたして再生の道はあるのか？		

913.6/ササ/	真夏の雷管	佐々木譲／[著]	角川春樹事務所
	精密工具の万引き。硝安の窃盗事件。消えた電気雷管。3つの事件が繋がったとき、急浮上する真夏の爆破計画。誰が、いつ、どの瞬間に？ 刻限に向けて、チーム佐伯が走る！ 北海道警察シリーズ第8弾。		
913.6/サト/	月の満ち欠け	佐藤正午／著	岩波書店
	自分が命を落とすようなことがあったら、もういちど生まれ変わる。この娘が、いまは亡き我が子？ いまは亡き妻？ いまは亡き恋人？ そうでないなら、はたしてこの子は何者なのか。さまよえる魂と数奇なる愛の物語。第157回直木賞受賞作。		
913.6/シノ/	仁者無敵	志野靖史／著	朝日新聞出版
	孟子の訓えを信じる儒者の小瀬甫庵は、戦国の変転の中、主君、親友を失いながらも生き抜き、やがて信長、秀吉の評伝である「信長記」「太閤記」を書き始める…。志を貫いたその生涯を、卓抜な想像力で紡ぎ出した歴史時代小説。		
913.6/トハ/	チャップリン暗殺指令	土橋章宏／著	文藝春秋
	昭和7年、青年将校たちが首相暗殺などクーデターを画策。陸軍士官候補生の津島新吉は、帝国ホテルに滞在していた喜劇王・チャップリンの暗殺を命じられ…。歴史サスペンス。		
913.6/ナガ/	もう生まれたくない	長嶋有／著	講談社
	にわかナースの春菜、ゲームオタクのシングルマザー・美里、謎めいた美人清掃員の神子。震災の年の夏、偶然の訃報でつながった彼女たちの運命が動き始める。生の光を伝える長編小説。		
913.6/ホン/	dele	本多孝好／著	KADOKAWA
	依頼人の死後、その人が使っていたデジタルデバイスから指定されたデータを削除する。そんな仕事をする祐太郎と圭司は、様々な事件に遭遇する。残された秘密のデータの謎、そこにある真実とは…。		
913.6/マキ/	パーマネント神喜劇	万城目学／著	新潮社
	デートの途中、突然時が止まった。動かない街に現れたのは、「神」と名乗るアヤしげな男たちで…。心ぬくもる、神頼みエンタメ。		

日本文学－エッセイ

914.6/アサ/	風と共にゆとりぬ	朝井リョウ／著	文藝春秋
	レンタル彼氏との全面対決、災難続きのホームステイ…。日常のエピソードを綴るほか、『日本経済新聞』掲載のコラムを、当時を振り返るコメント付きで収録。痔の発症から手術、入院まで、その戦いを記した「肛門記」も掲載。		
914.6/ハム/	古都再見	葉室麟／著	新潮社
	先斗町のバーで津田三蔵の幻を追い、「司馬遼太郎のソファ」に新撰組を思う。京都に仕事場を構えた作家が自由に思索する、歴史エッセイ集。知的興奮に満ちた全68編を収録する。		

展 示 の ご 案 内

■ 8 / 9 (水) ~ 8 / 24 (木) ■

カンタン絵本づくり作品展 (本館1階)

8月3日、4日に開催した講座「カンタン絵本づくり」の作品を展示します。絵本の作り方の本もご紹介します。

■ 8 / 26 (土) ~ 9 / 24 (日) ■

命を守る図書展~3万分の1の命と向き合う~ (本館1階)

日本では自殺によって多くの尊い命が失われています。自殺の多くは防ぐことができる社会的な問題です。この自殺の問題に対して、私たちひとりひとりができることは何でしょうか。自殺予防、うつ病、命の大切さに関するパネルや図書を展示します。

開館時間

【本館】 平日 10:00~19:00、土日祝 10:00~17:00
8月27日(日)までは、9:30から開館します。
【分館】 全日 9:00~17:00

休館日

毎週月曜日、毎月最終金曜日
(8月 7,14,21,25,28日)
※お盆休みはありません。おいでください。

【臨時休館】 9月25日(月)~29日(金)は、蔵書点検のため、全館休館します。

携帯用
サイト



「図書館だより」2017年8月号

発行：可児市立図書館 編集：長谷川(本館) 電話(0574)62-5120
資料検索・予約は <http://www.kani-lib.jp/> をどうぞご利用ください。